

令和7年度

総合型選抜Ⅱ期

児童教育学科

課題作文

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 解答用紙は学科により異なります。自分が受験する学科（受験票に記載された学科）と解答用紙の学科に相違がないか、確認すること。
- ③ 開始の合図の後、解答用紙に「氏名」・「受験番号」を記入すること。受験番号は算用数字で記入すること。
- ④ 解答用紙は横書きで記入すること。
- ⑤ 記述解答で、字数の指定がある問題では、句読点は1字として数えること。
- ⑥ 下書きは、問題用紙の余白または裏面を使用すること。
- ⑦ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ⑧ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

次の文章は、子どもの研究者であり保育の実践者でもある津守真によるものです。これを読んで、後の設問に答えてください。

ある日のことである。数人の小さな子どもが滑り台で遊びはじめたとき、私は滑り下りてきた子どもを、下で受けとめていた。中には、はじめて一人で滑った子どももいる。滑り下りたところで、一瞬とまり、やったというような表情で、私を見て笑う。私もその一瞬を受けて、しばらく息をのむ。そうして、腰を床につけていた子どもは、自分で立ち上がり、一人で階段を上ってゆく。次の子どもは、声を立てて滑り下りたところで、顔を見合わせて笑う。かなり長い時間を感じられる。子どもと相向かうそのときは、活動の他の部分から切り離され、そのときだけで価値をもつ、落ち着いた一瞬である。私も、滑り台を継続させようと動くのではなく、滑り下りたその現在を、子どもと一緒に実感するだけである。そうすると、子どもはまた、自分から階段に向かう。

子どもと共有された落ち着いた静けさは、子どもの中に、小さなしかし決然とした自発性を生み出し、大人の中に、子どもとともに現在を生きることのできた相互性の感覚をよび起こす。子どもにとって、滑り台をして遊んだというよりも、他人との相互性の中で自分が生きた体験が、この一日の原動力であったと思う。

(出典：津守真『保育者の地平』ミネルヴァ書房、1997年)

設問1 文中の下線部「私も、滑り台を継続させようと動くのではなく、滑り下りたその現在を、子どもと一緒に実感するだけである」について、あなたの考えを述べてください。本文を引用する場合は、必ず引用箇所を「」で示してください。(300字以内)

設問2 あなたはどのようなことを大事にする保育者・教育者になりたいですか。上記の文章を読んだうえで考えたことを述べてください。(500字以内)

〈留意事項〉

必要に応じて段落分けをし、読みやすいようにしてください。

